

朝日新聞 平成24年 8月9日

中山商事(株)

指し手学ぶ恐竜将棋

福井の元女流アマ名人考案
メーカー

恐竜を描いた将棋の駒で、親子が楽しみながら将棋の指し方を学べる「きょうりゅうしょうぎ」を、福井市の紙加工メーカー「中山商事」が発売した。同社に勤める元女流アマ将棋名人が考案。受注から2、3週間待ちの人気商品になっている。

企画したのは、同社知育教材開発部の石内奈々絵さん(28)。石内さんは福井市出身で、2002〜05年の学生女流名人戦で4連覇。03年の女流アマ名人戦でも優勝した。NHKテレビの将棋講座にアシスタントで出演した経験もある。

2年前に入社。得意の将棋を生かすと同時に、福井らしい商品作りができないかを考えた。福井県は勝山市が「フクイサウルス」な

ど日本有数の恐竜化石の出土地で知られ、恐竜は子どもにも人気で親しみやすいことから、将棋と組み合わせることになった。

再生紙を貼り合わせてつくった縦横約3センチの駒に、王将にはティラノサウルス、飛車にはプテラノド、角行にはトリケラトプス、歩には恐竜のタマゴなどのイラストを描いた。

対象年齢は5歳から小学校高学年まで。年齢に応じ



て絵あわせゲームやパズル、積み木のようにも遊べるよう工夫した。恐竜の絵を見ながら、親子で遊び方のルールを考えることもできるという。

もちろん、普通の将棋としても使え、駒の動かし方も矢印で書き加えてある。

詰将棋のようなゲームも紹介しており、子どもが自然に将棋の指し方を学べるつもりだ。石内さんは「私が将棋から学んだ、考える力

や集中力を子どもたちに伝

将棋の元女流アマ名人、石内奈々絵さんが企画した「きょうりゅうしょうぎ」―福井市

えたい」と話した。

同社は1927年創業の老舗メーカー。紙と紙を貼り合わせ、型抜きやカットで駅弁用の紙箱や紙製ドラム缶などを製造している。中山裕一郎社長(43)は「うちは下請けの仕事が多いが、町工場でも商品

開発できることをアピールしたい。紙のぬくもりや、福井のよさも伝えたい。この商品にはいろんな思いがこもっている」と話した。

商品は受注生産で、現在は2、3週間待ちの人気だという。駒40個と盤、遊び方の説明書などの1セットで2千円。問い合わせは中山商事(0776・53・8000)へ。(小堀龍之)